



11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。  
 <区分>①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

(区分) ②おおむね順調に進展している
(理由) 今年度に予定していた実験はおおむね実施することができた。特に、 <i>sec21</i> 遺伝子の温度感受性変異の単離に成功したこと、また、 <i>Ryh1</i> に加えて <i>Ypt4</i> が新たな TORC2 活性化因子の候補として同定できたことは大きな進展である。

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

申請書に記載した計画に沿って今後の研究を推進するが、特に、 <i>Ypt4</i> が新たな TORC2 活性化因子である可能性について重点的に検証する。 <i>Ypt4</i> は出芽酵母には明らかな相同遺伝子が存在しないが、ヒトを含む高等生物では保存されている。今後、 <i>ypt4</i> 遺伝子破壊株および <i>ypt4 ryh1</i> 二重変異株での TORC2 依存的な <i>Gad8</i> のリン酸化を定量す他、顕微鏡観察により <i>Ypt4</i> の細胞内局在を調べて TORC2 と共局在するかを検討する。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

13. 研究発表（平成23年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

【雑誌論文】 計(0)件      うち査読付論文 計(0)件

著者名	論文標題					
雑誌名	査読の有無	巻	発行年			最初と最後の頁
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)						

著者名	論文標題					
雑誌名	査読の有無	巻	発行年			最初と最後の頁
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)						

著者名	論文標題					
雑誌名	査読の有無	巻	発行年			最初と最後の頁
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)						

【学会発表】計(6)件 うち招待講演 計(4)件

発表者名	発表標題		
塩崎 一裕	Sin1, an essential TOR complex 2 (TORC2) subunit conserved from yeast to man		
学会等名	発表年月日	発表場所	
6th UK-Japan Cell Cycle Workshop	2011年4月12日	Low Wood Hotel (Windermere、英国)	

発表者名	発表標題		
塩崎 一裕	Sin1, an essential TOR complex 2 (TORC2) subunit conserved from yeast to man		
学会等名	発表年月日	発表場所	
Pombe 2011 (招待講演)	2011年6月28日	Harvard Medical School、(Boston、米国)	

発表者名	発表標題		
塩崎 一裕	分裂酵母の環境ストレス耐性に必須なTORキナーゼ複合体(TORC2)の制御機構		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本遺伝学会第83回大会 (シンポジウム・オーガナイザー)	2011年9月20日	京都大学農学部 (京都府)	

発表者名	発表標題		
塩崎 一裕	Sin1, an essential TOR complex 2 (TORC2) subunit conserved from yeast to man		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本生化学会第84回大会 (招待講演、シンポジウム・オーガナイザー)	2011年9月23日	国立京都国際会館 (京都府)	

発表者名	発表標題		
塩崎 一裕	Fission yeast as a model system to study TOR complex 2 signaling		
学会等名	発表年月日	発表場所	
7th International Workshop on Cell Regulation in Division and Arrest (招待講演)	2011年10月25日	沖縄科学技術大学院大学 (沖縄県)	

発表者名	発表標題		
塩崎 一裕	細胞増殖とインスリンシグナル伝達を担うTORキナーゼ複合体TORC2の機能構築		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第29回染色体ワークショップ (招待講演)	2012年1月26日	ホテルニュー水戸屋 (宮城県)	

【図書】計(1)件

著者名	出版社			
建部 恒、塩崎 一裕	Springer Science			
書名			発行年	総ページ数
"PP2C" in Encyclopedia of Signaling Molecules			2012	in Press

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

<http://bsw3.naist.jp/courses/courses304.html>